

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02695

研究課題名（和文）地理的変異に基づくスペイン語の統語研究 データの統合と分析

研究課題名（英文）Syntactic studies of Spanish geographical variation: data and analysis

研究代表者

高垣 敏博 (TAKAGAKI, Toshihiro)

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：00140070

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：スペイン語の文法研究で問題となる統語現象（叙法、人称代名詞、再帰代名詞、関係詞、性・数の一致、主述の一致、語順、ボイスなどのテーマ）の使用実態を、スペイン語圏における現地アンケート調査の結果により明らかにし、その調査結果を公表するのが本研究の目的である。このような地理的バリエーションという観点を導入することにより、広域使用言語であるスペイン語の文法研究に新たな視点や分析法をもたらすことができると期待する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで主要な文法課題について、スペイン語圏全域を包括的・体系的に俯瞰しながら取り扱った研究はあまり知られていない。20か国をこえるスペイン語圏の主要都市で現地のアンケート調査を実施し、得られた結果をテーマごとに全都市で比較することが可能になってきた。このような調査は、スペイン語圏の研究者の間でも前例がほぼないに等しい。スペイン語圏各地の変異形を網羅的に提供する本研究の成果は、内外のスペイン語文法研究に貢献できるとともに、スペイン語教育の観点からも有益であると期待される。

研究成果の概要（英文）：Topics such as moods, pronominal nouns, reflexive constructions, relatives, agreement of gender and number, subject-predicate concordance, word order and voice, etc. have always been subjects of grammatical studies of the Spanish language. Our project aims at collecting variants of forms and constructions concerned with these topics, by means of questionnaire carried out in all the Spanish-speaking countries. The results, made public on our home page, are expected to offer new perspectives and analyses to the investigation of this globally used language.

研究分野：スペイン語学

キーワード：スペイン語学 言語地理学 方言学 言語バリエーション 統語論

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「文法バリエーション」の記述を目指す本研究は、これまで5期15年にわたってアンケート調査を実施し、24都市における約500人分の結果を得ていた。まずスペインで試行的現地アンケート調査(平成13年度~15年度科研費助成により、9地点で約200名のインフォーマント)を実施した。同時に平成17年度より実施したラテンアメリカの数地点(メキシコ、アルゼンチン、パラグアイ、チリ、コロンビア)における現地調査(平成16年度~18年度科研費助成により約100名の被験者に対して実施)によりスペインとラテンアメリカの一部の地域との比較ができるようになった。

本研究開始時(2017年)には調査都市は数か所を残すところまで来ていた。残った中米4か国の中から受け入れ条件が整ったエルサルバドルとグアテマラの各首都の大学にてアンケートを実施することができ、その成果はすでにHP上のデータとして追加されている

2. 研究の目的

ある地域で使用される言語使用の1つの形式(例えば、マドリードのスペイン語の男性対格人称代名詞男性形 *le* とその他の地域での *lo* の使用)を観察しているだけでは不明な実態も、スペイン語圏全域の多様な変種の中に位置づけることにより、興味深い鳥瞰が得られることがある。

【弱形代名詞の通時的変遷と地理的変異の対応】

	単数	
	男性	女性
対格	<i>lo</i>	<i>la</i>
与格	<i>le</i>	

	単数	
	男性	女性
対格	<i>lo/le</i>	<i>la</i>
与格	<i>le</i>	<i>le</i>

	単数	
	男性	女性
対格	<i>le</i>	<i>la</i>
与格	<i>le</i>	<i>la</i>

機能的体系(ラ米一般)

過渡的体系(スペイン一般)

指示的体系(スペイン首都圏)

このように、スペイン語の文法研究で問題となる統語現象の使用実態を、地理的バリエーションの中に位置づけ、多地域の網羅的データに基づくことにより、スペイン語文法の新しい分析が可能になると考える。

具体的には、叙法、人称代名詞、再帰代名詞、関係詞、性・数の一致、主述の一致、語順、ボイスなど20程度のテーマについてのアンケート調査をスペインおよびラテンアメリカの主要都市において実施することが、中心的な作業であり、成果の分析が目的となる。

3. 研究の方法

同じ文法形式の多様な変異形式のデータを、現地アンケートによって収集し、結果を比較・分析して、最終的には変異の要因を追究する。

例えば、「~に入る」という意味の”動詞 *entrar* 「入る」+前置詞 *en/a* 「~に」”の結合における前置詞が先行文献ではラテンアメリカでは *a*、スペインでは *en* が用いられるとされるが、アンケートのモデル文 *Ellos entraron al cuarto* 「彼らは部屋に入った」で、各地域の被験者約20人が、自分はそれを「言う」「言わないが、聞いたことがある」「言わないし、聞いたこともない」の3択から回答する。

[アンケート例]

[Ejemplo 1] Yo la dije la verdad. (la = María)

✓(A) Yo lo diría así.

(B) Yo no lo diría, pero lo he oído decir.

(C) Yo no lo diría ni lo he oído decir.

(D) Comentarios: _____

[Ejemplo 2] No estoy seguro(a) de que tenían dinero.

(A) Yo lo diría así.

✓(B) Yo no lo diría, pero lo he oído decir.

(C) Yo no lo diría ni lo he oído decir

(D) Comentarios: Diría: tuvieran

“entrar a”の調査例ではスペインおよびラテンアメリカの各地点における調査結果（実数および比率）が以下のように得られた。

[スペイン]

Respuestas (España) Ellos entraron *al edificio. (N. 14)

Frec.	OVI	PAM	BAR	SAL	ALC	MAD	SEV	HUE	TEN	PAL
1:Digo.	18	16	8	11	10	16	10	4	17	19
2:Oigo.	9	4	11	7	1	5	13	12	3	3
3:No.		1	1				1	4		2

Tabla 1

Porcentajes (España) Ellos entraron *al edificio. (N. 14)

%	OVI	PAM	BAR	SAL	ALC	MAD	SEV	HUE	TEN	PAL
1:Digo.	67	76	40	61	91	76	42	20	85	79
2:Oigo.	33	19	55	39	9	24	54	60	15	13
3:No.		5	5				4	20		8

Tabla 2

[ラテンアメリカ]

Respuestas (Latinoamérica) Ellos entraron *al edificio. (N. 14)

FA.	MEX	SJO	PAN	HAB	SDO	SJU	CAR	BOG	QUI	LIM	LPA	STG	ASU	MTV	BUE
1:Dig	19	21	32	18	29	21	24	24	20	22	33	25	18	19	20
2:Oio	2	2	3		2	1	1	1	3	1	5		2	1	
3:No.			2								1				

Tabla 4

Porcentajes (Latinoamérica) Ellos entraron *al edificio. (N. 14)

%	MEX	SJO	PAN	HAB	SDO	SJU	CAR	BOG	QUI	LIM	LPA	STG	ASU	MTV	BUE
1:Digo.	90	91	86	100	94	95	96	96	87	96	85	100	90	95	100
2:Oigo.	10	9	8		6	5	4	4	13	4	13		10	5	
3:No.			5								3				

Tabla 5

結果として、先行研究に反して、両地域で使用頻度が近似すること、および、ラテンアメリカの結果も一様ではなく、むしろスペインに似た使用率の都市があることなどが判明した。このような 110 のモデル文についてのアンケート結果が HP 上で公開され、スペイン語文法研究に有益な参照資料となる。

4 . 研究成果

すでに 18 年におよぶ当研究の成果や方法については複数の機会でも発表してきた。2005 年開催のラテンアメリカ言語学会 (ALFAL, メキシコ・モンテレイ市開催。スペイン語の語彙バリエーション・ワークショップを主宰) ではスペインのアルカラ大学 Francisco Moreno 博士や、メキシコ市コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学の Raul Ávila 博士などスペイン方言地理学、スペイン語文法研究の泰斗から高い評価を得た。また 2008 年ウルグアイ・モンテビデオにて開催のラテンアメリカ言語学会でもワークショップを主宰、参加者との意見交換を行い、本研究の方針が広く認知されてきた。2013 年 10 月に開催されたラテンアメリカ言語学会東京地域会議 (Alfalito) でも本研究について紹介し、出席した上記言語学会会長 Adolfo Elizaincín 氏やマドリード自治大学の Azucena Palacios 氏からも一定の評価がなされた。2014 年にはスペイン王立言語アカデミーの言語研究の権威 Ignacio Bosque 博士を、さらに 2015 年にはバルセロナ大学名誉教授 Emma Martinell 氏を招聘し、本研究に対する評価と助言を受けた。

さらに 2016 年には、バルセロナ自治大学の研究グループ「スペイン語統語地図」(ASINES <http://www.asines.org/>) から研究の連携の申し出があり、現地での面談を経て、研究協力の合意がなされた。研究代表者高垣はすでにスペインの調査で得られたデータに基づいて、「スペイン語統語現象の地理的バリエーションについて—スペインでの調査から」(『スペイン語学研究』22 号, 2007) またメキシコおよび南米 4 カ国での調査結果については「スペイン語統語現象の地理的バリエーションについて—メキシコおよび南米 4 カ国の調査から」(『スペイン語学研究』23 号, 2008) で紹介している。他にも、上田・高垣・ルイズ(2009)、ルイズ(2010)、上田・ルイズ(2010)、ルイズ(2011)などで成果を発表している。また高垣は 2014 年に“Variación gramatical del español: Algunos resultados del Proyecto VARIGRAMA”, *Actas del Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica*, Instituto Cervantes de Tokio (pp.248-264)を発表している。

2019 年には上記バルセロナ自治大学の Ángel Gallego 博士が編集する Dialectología digital 「デジタル方言学」(Verba 誌特集号)への本研究の紹介論文(“Variación gramatical del español en el mundo”「世界のスペイン語の文法バリエーション」)の掲載が予定されている。調査結果のデータは、研究協力者上田博人のホームページ (<https://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/varigrama/index.html>) 上田は、今期も含め数期にわたるアンケートのデータを 1 つのデータベースとして統合し、データベースから文法項目と地域の「二次元分布表」を作成できるようにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 高垣敏博	4. 巻 33
2. 論文標題 スペイン語の重複表現－日本語と比べながら	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 スペイン語学研究	6. 最初と最後の頁 101-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Barbaresi, Adrian; Ruiz Tinoco, Antoni	4. 巻 1
2. 論文標題 Using Elasticsearch for Linguistic Analysis of Tweets in Time and Space	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the LREC 2018 Workshop “Challenges in the Management of Large Corpora (CMLC-6)”	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antonio Ruiz Tinoco	4. 巻 7
2. 論文標題 Variation of the Second Person Singular of the Simple Past Tense in Twitter: Hiciste vs. Hicistes “You Did”	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Dialectologia, Special Issue	6. 最初と最後の頁 145-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroto Ueda	4. 巻 7
2. 論文標題 Two statistical treatments of spanish vocabulary: composite indices of frequency and dispersion and principal component analysis applied to ordinal frequencies	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Dialectologia, special issue	6. 最初と最後の頁 187-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福嶋教隆	4. 巻 50
2. 論文標題 スペイン語の2つの接続法過去について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ロマンス語研究	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高垣敏博	4. 巻 32
2. 論文標題 日本語の「行く/来る」とスペイン語の "ir / venir"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スペイン語学研究	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 福嶋教隆
2. 発表標題 外来語がスペイン語の音韻体系に与える影響について
3. 学会等名 日本スペイン語学セミナー第38回大会 (SELE 2018)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福嶋教隆
2. 発表標題 La distribucion geografica del uso del subjuntivo
3. 学会等名 3er. Congreso Internacional sobre el Espanol y la Cultura Hispanica
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshihiro Takagaki
2. 発表標題 Posibilidades de linguística contrastiva del japonés y el español
3. 学会等名 XXX Congreso CANELA (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Antonio Ruiz Tinoco
2. 発表標題 Twitter como recurso para la enseñanza del léxico variable del español
3. 学会等名 V Jornadas ELE en Bangkok (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroto Ueda
2. 発表標題 Queísmo y dequeísmo observados en los datos de VARIGRAMA en el sistema LYNEAL. Aproximación a la realidad de variación sintáctica española a través de análisis multivariados pluridimensionales
3. 学会等名 Spanish Dialect Syntax, Universidad Complutense de Madrid (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福嶋教隆
2. 発表標題 de ahí que節の叙法選択について
3. 学会等名 日本イスパニヤ学会 第63回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toshihiro Takagaki
2. 発表標題 Posibilidades de linguística contrastiva entre japones y español
3. 学会等名 XII Jornadas Abiertas de Lengua y Cultura de Japon (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 高垣敏博	4. 発行年 2018年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 スペイン語接続法超入門	

1. 著者名 高垣敏博他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 287, 175
3. 書名 大学のスペイン語I, II	

1. 著者名 Toshihiro Takagaki編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Ediciones Universidad Autonoma de Madrid	5. 総ページ数 194
3. 書名 Exploraciones de linguística contrastiva español-japones	

1. 著者名 Hiroto Ueda ; Anronio Ruiz Tinoco	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Iberoamericana Vervuert	5. 総ページ数 26
3. 書名 Lexico dialectal y lexicografía en la Iberorromania	

1. 著者名 Noritaka Fukushima	4. 発行年 2018年
2. 出版社 De Gruyter Mouton	5. 総ページ数 18
3. 書名 Handbook of Japanese Contrastive Linguistics (Handbooks of Japanese Language and Linguistics, Vol.6	

1. 著者名 Noritaka Fukushima	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Mouton De Gruyter, Berlin	5. 総ページ数 736 (分担 635-652)
3. 書名 Handbook of Japanese Contrastive Linguistic	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上田 博人 (UEDA Hiroto) (20114796)	東京大学・大学院総合文化研究科・名誉教授 (12601)	
研究分担者	宮本 正美 (MIYAMOTO Masami) (20131477)	神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教授 (24501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	福嶌 教隆 (FUKUSHIMA Noritaka) (50102794)	神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教授 (24501)	
研究 分 担 者	R・TINOCO Antonio (TINOCO Antonio) (80296889)	上智大学・外国語学部・教授 (32621)	